



ごあいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 中澤 靖夫

第33回日本診療放射線技師学術大会・第24回東アジア学術交流大会が9月22日～24日の3日間、北海道函館市民会館・函館アリーナにおいて板東道夫大会長（一般社団法人北海道放射線技師会会長）の下、北海道・東北地域に所属する各県（診療）放射線技師会の全面的なご協力のおかげで開催できますことを、心よりお礼申し上げます。

今大会のテーマは「国民と共にチーム医療を推進しよう」であり、サブテーマは北海道放射線技師会の総意を表した「未来への開港－技の継承と飛躍－」です。北海道は、世界自然遺産の知床をはじめ豊かな大自然が満ちあふれている、わが国でも最も人気のある都道府県魅力度ランキング1位の地でもあります。中でも函館は、四季折々の自然の変化に富み新鮮な海の幸に恵まれ、函館山から見る夜景は絶景であり、世界三大夜景とも呼ばれています。この学術大会も、全国47都道府県と連携しながら診療放射線技師の「未来への開港－技の継承と飛躍－」を発表する大会へと成長させていきたいと考えています。

厚生労働省連携企画としましては「第3期がん対策推進基本計画について（仮）」「チーム医療の推進と今後の課題」「医療事故調査制度について」「平成30年度診療報酬改定に向けて」の4演題です。各演題には厚生労働省健康局がん・疾病対策課、厚生労働省医政局医事課、厚生労働省医政局総務課の担当官に基調講演などをお願いしています。第24回東アジア学術交流大会の企画としては、前夜祭にAsia Forumと題して参加各国の会長による「各国における診療放射線技師教育制度の紹介」を行います。招聘講演として「Current Situation and Future Perspective of Education for Radiographers and Radiologic Interpretations by Radiographers in Europe」と題して、EFRSのPresident Dr. Håkon H. Hjemlyの講演、「Current Situation and Future Perspective of Education for Radiographers in New Zealand」と題して、The University of Auckland, Associate Professor Dr. Jenny Hiow Hui Simの講演を行います。International Sessionでは、62演題の発表を予定しています。さらに講演企画として、会長講演「日本診療放射線技師会の

現状と課題」、特別講演1として「脳梗塞と脊髄損傷の再生医療－医師主導治験による実用化－」札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所 神経再生医療学部門 教授 本望 修氏、特別講演2として「論文分析から見た日本の医療研究の成果と課題」鈴鹿医療科学大学 学長 豊田長康氏、特別講演3として「腹部MRIの最前線」名古屋大学大学院医学系研究科 教授 竹原康雄氏、特別講演4として「人工知能最前線：人工知能は世の中をどう変えるか」公立ほこだて未来大学 複雑系知能学科 教授 松原 仁氏、市民公開講座として「高齢化社会－長く生きるために－老化にともなう循環器疾患とその予防について」札幌医科大学医学部病院管理学 教授 土橋和文氏、教育講演1として「研究が医療を動かす－褥瘡ゼロに向けてのストラテジー」東京大学大学院医学系研究科 教授 真田弘美氏、教育講演2として「骨・関節のX線画像診断～放射線技師ならここをおさえろ～」社会医療法人禎心会 セントラルCIクリニック 院長 玉川光春氏、教育講演3として「手術と放射線技師の関わり」札幌医科大学医学部 脳神経外科学講座 准教授 鰐淵昌彦氏——の開催、各委員会企画シンポジウム8演題、学会企画4演題、分科会企画9演題を準備しています。さらに一般演題を中心にハンズオンセミナー・プログレッシブセミナー・ランチョンセミナーなど、ワクワク・ドキドキする企画を用意しています。

本会の大きな役割は、国民と協働し、医療者と協働し、質の高い医療を提供することです。そのためには、全国の医療機関・検診機関・行政機関・教育機関などで働いている診療放射線技師の生涯教育が最も重要であると考えています。本会の学術大会に参加され大いに学んでほしいと願っています。また日本画像医療システム工業会ならびに関連医療機器メーカー・医薬品メーカーのご協力により、医療機器の展示、医薬品の展示を企画しますので、多くの会員の参加をお願い致します。

最後になりましたが、学術大会の開催に当たり、3年間の長きにわたり準備していただきました板東道夫大会長、大野肇副大会長、富田伸生実行委員長、各実行委員、本部実行委員の皆さま方に心から感謝を申し上げますとともに、会員の皆さま方のご参加とご協力をお願いする次第です。